



9がつ 附幼だより

令和6年8月30日

北口榛花さん,金メダルおめでとう!

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

今年の夏、8月中旬から始まったパリオリンピック。もう終わってしまいましたがたくさんの感動がありました。なかでも、陸上やり投げの北口榛花さん、ご存じの皆さんも多いと思いますが平成15年度(2004年3月卒園)の附属旭川幼稚園卒園児です。附属幼稚園ではどんなお子さんだったのでしょうか。幼児期にどんな経験や育ちをすると、北口榛花さんのように明るくて、本番に力を発揮できる人に育つのだろうかと考えます。

私が幼稚園を運営していく中で最も大事にしていることは、園児全員が毎日の幼稚園生活の中で「楽しかった」と感じてくれることです。幼児期は一日の始まりでも、みんなでする活動でも、ほとんどのことが「楽しい」から始まるものです。また、年齢が低ければ低いほど、『楽しくないことはやらないもの』です。2学期が始まって約2週間。園児66名はそれぞれ、好きな遊びがあって、幼稚園生活を楽しく送っているといえるでしょう。年齢が上がれば「少し嫌なことも頑張ろう」とか、「失敗したことにもう一度挑戦しよう」ということができるようになります。もっと成長の先を考えると、このような幼稚園での経験が学校の学習に生きてきますし、大人になって社会の一員となった時に、様々な人や環境の中で、自分の思いを発表したり、人と力を合わせて物事を進めたりする。そんな大人に成長することを期待できます。

もう少しで、パラリンピックも始まります。大会のホームページには「世界最高峰の障がい者スポーツ大会で、トップアスリートが高いパフォーマンスを競う世界的なイベント」と説明されています。競技を見ていると、本当にすごい人たちがいると感じます。手足が不自由だったり、目が見えなかったり……。そんな選手の動きの力強さや、速さには目を見張ります。北海道出身者は5名のように。パラリンピックの選手たちは大きな挫折を乗り越え、パラリンピックに出場していると思います。挫折を乗り越えさせるものはどんなことだったのでしょうか？きっと、挫折を乗り越えた時の喜びや楽しさなのではないでしょうか。私たちも、園児一人一人の楽しさや喜びをもっともっと大切にしたいと考えています。

メロンが立派に育ちました

おひさまさんが「メロン植えたい」というので2本植えてみました。写真のように立派に実りました。今、おひさまでは半分を収穫し、追熟を行っています。昨日、試しに食べてみて、園児は「おいしい」と言っていました。でも、もう少し追熟の必要があります。畑にはまだ10個以上あるので今年の園児たちは、たくさんメロンを食べることができると思います。裏の畑やおひさま組の保育室前、畑をぜひ見てください。お店で売っているような立派なサイズになりました。おひさまの皆さんおいしいメロンを食べて元気をつけて、登山へいきましょう！！

